

現行計画に関する意見等の整理

現教育計画（2019～2023）	事業の進捗状況（中間報告）	懇談会の主な意見等	アンケート・ヒアリング	次期教育振興基本計画（国）
<p>【基本方針1】子どもの「生きる力」の育成に向けて</p> <p>次代を担う子どもたちが自らの人生を切り拓くために、主体的・対話的で深い学びを通して、確かな学力を育むとともに、豊かな心や健康・体力などの「生きる力」を育成していく。</p> <p>1 社会の変化に応える確かな学力の育成 ①きめ細かな学習指導による 基礎・基本の習得と活用 ②学ぶ意欲の向上に向けた教育の充実・推進 ③教育の情報化による学習指導の質の向上 ④持続可能な開発のための教育（ESD）の推進</p> <p>2 豊かな心を育む教育の実現 ①人権教育の推進 ②いじめや暴力行為の防止に向けた教育の推進 ③道徳教育の充実 ④読書活動の推進</p> <p>3 子どもの健康づくりと体力づくりの推進 ①たくましく生きるための健康と体力づくりの推進 ②望ましい生活習慣や規律のある生活習慣の確立</p> <p>4 一人ひとりを大切にす教育の推進 ①校内体制の充実 ②個に応じた教育実践の内容の充実 ③個に応じた教育実践を支える教育委員会の役割の充実</p>	<p><1 社会の変化に応える確かな学力の育成></p> <p>✓ 各学校において、対話的な学びの場面を入れるなど校内での共通理解を図りながら指導を行っている。</p> <p>✓ 外国語教育の推進では、ALTによる指導や小学校における英語専科の教員による授業など教科化についても対応してきた。</p> <p>✓ 学習支援員と学校生活支援員の役割を整理し配置することで、学校現場でより効果的に支援がなされるよう計画的に進めている。</p> <p>✓ 令和2年度(小学校)及び令和3年度(中学校)からの新学習指導要領の全面実施に向けて、研究指定校を指定するなど、授業を通して児童・生徒の資質・能力を育成するための取組を実施した。</p> <p>✓ キャリア・パスポートの実施により、児童・生徒一人ひとりが教育活動を通しての学びや自身の成長を実感できるようにし、自己の将来とのつながりを見通す力を育成し、算数・数学科や英語科における習熟度に応じた児童・生徒の編成を行い、児童・生徒一人ひとりに合わせた指導を充実するよう授業改善を図っている。</p> <p>✓ 全市立中学3年生を対象としたタブレットを活用したオンライン映像授業を行い、生徒が自分のペースで学び残しの解消や発展学習に取り組める環境を提供し、学び残しの解消や発展学習の支援を行っている。</p> <p>✓ 各学校にGIGAスクール推進教師を設置し、校内においてリーダーシップを発揮させることで、GIGAスクール構想の実現を推進している。また、「西東京市子どもGIGAスクール委員会」の立ち上げや「タブレットルール3きょうだい」の策定といった、子どもたちが主体となるような取組を開始している。</p> <p>✓ タブレットやロボットを使ったプログラミングの授業など、ICT支援員の授業支援を有効に活用したプログラミング教育を推進している。また、ICT支援員等と連携し、プログラミングを通した論理的思考を育む取組を行っている。</p> <p>✓ オリンピック・パラリンピック教育を中心に、「世界ともだちプロジェクト」などを通した国際理解に関する学習を進めている。</p> <p>✓ 各学校における「安全教育プログラム」や中学校におけるスクエアド・ストレイトの実施により、警察・保護者・地域の方々等と連携した安全教育を学習する機会を継続している。</p> <p>✓ 各家庭でのCO2の排出量を子どもたちが調べる取組や総合的な学習の時間における環境についての調べ学習、SDGsの目標に関連した取組の全校での実施、SDGsの研究指定校の指定など持続可能な教育の実践についての研究を行っている。</p> <p><2 豊かな心を育む教育の実現></p> <p>✓ コーチングスキル研修の実施や校内研修の充実、教員の服務に関する学校説明会による指導・助言のほか、令和3年度からは「西東京市子ども条例」や人権教育の理念の下、一人ひとりの子どもたちを大切にす「西東京あったか先生プロジェクト」を推進している。</p> <p>✓ 「人権教育プログラム」を活用し、「西東京あったか先生」の理念の下、様々な人権課題について考えるとともに児童・生徒の心に寄り添った指導を行っている。</p> <p>✓ 「西東京市子ども条例」については、市長部局との連携による副読本を活用した授業を通して、児童・生徒の理解啓発を図っている。</p> <p>✓ 獣医師会と連携し学校飼育動物の世話を継続するとともに道徳教育を通して生命を大切にす学習を行っている。</p> <p>✓ いじめ対応に関する「西東京ルール」の周知・徹底を図っている。また、いじめスペシャリスト研修により組織的な対応ができるよう資質の向上を図るとともに、児童・生徒へのアンケートや面談により、いじめなどの早期発見・早期対応に努めている。</p> <p>✓ 「西東京あったか先生」を推進し、児童・生徒の心に寄り添った対応を全教員が行い、一人ひとりに応じた個性の伸長を図る生活指導を推進している。</p> <p>✓ 道徳教育推進教師連絡会における指導力の向上及び道徳授業地区公開講座における授業の充実を図っている。</p> <p>✓ 保護者や地域とともに道徳教育の一層の充実を図るため、公開講座の内容などについて保護者等との意見交換を行っている。</p>	<p>・次世代を担う子どもの姿には「創造的に生き抜いていく子ども」の姿が必要。</p> <p>・インクルーシブな社会（多様性）をどのように作って行くかが課題だが、障害者も含めて皆で共に楽しむ社会が今後の主流になる。</p> <p>・「デジタルに特化した考える力を育てること」が求められるため、文系も理系の知識を学習し、知識を融合しながら教育に取り組むことが今後必要となる。</p> <p>・SNSで簡単に拡散されるデジタルの怖さにも注目し、子どもたちの育成を考えて行くべきと考える。</p> <p>・乳幼児期の成長には人と人との繋がりが最も重要で、人からしか学べないこと、直接のふれあいからしか学べないことがある。</p> <p>・今の子どもは幼児期からデジタル機器を上手に扱い良い面もあるが、教育の基本は人から学ぶということを忘れないように取って文言に追加するべき。</p> <p>・対面授業を受け友人とも交流できることで、学習が面白いと感じられた。人と人の繋がりを築いてから、デジタルを応用した方が学習意欲に繋がる。</p> <p>・子どもたちが改めて西東京市の良さ、西東京らしさを再認識できるような具体的な取組が必要。</p> <p>・日本のデジタルフォーメーションの成功していない原因は変革できる人材が、極めて少ないこと。トランスフォーメーションがうまくいかない原因は日本人の特質として答えのないものがあること。</p> <p>・ICTを使わない選択肢はないということだが、使うことで何を目指して行くのか。使うことの意義を考える必要がある。</p> <p>・デジタルとアナログではニュアンスに差が生じるので、「アナログ」ではなく、「リアル」という用語を使うのが適したニュアンスではないかと思う。</p> <p>・情報リテラシーや情報モラルについては、学校で指導することも可能だが、GIGAスクールとは関係なく、ネットの中毒性については問題である。YouTube等のインターネットに関する中毒問題については、次期の計画でも結構なので、対策が必要だと感じる。</p> <p>・小学1年生からネット社会に入るという傾向がある。「幼児期からつながる生きる力」を見ていかないと、学校だけではどうすることもできないと思う。</p> <p>・小学校の先生方には、園でどのようなことをしているのかを、もっと知っていただきたいと思う。</p> <p>・大切なことの1つは、リアルとデジタルの調和にあるように思う。西東京市の先進的なデジタルの取組を伸ばしつつ、リアルな体験を子どもたちにはしてもらいたい。</p> <p>・デジタルも大事だが、西東京市の風土を生かした、西東京市に誇りを持てる子どもたちを人とのつながりの中から育てていくことが必要だと思う。</p> <p>・リアルとデジタルの調和という中で、子どもに必要なものは何かというのを共有し、計画の中に盛り込んでもらえると良い。</p> <p>・マルチメディアデビューなどすぐ役に立つものが開発されてきていて、それを使うことが特別なことではなくて、一人ひとりの違いを認めて、その人らしく生きていくことが大事だという教育ができていくと良い。</p> <p>・体を動かすなど、リアルな体験も大事にしたいというところもある。デジタルについては、うまく使って欲しいがそればかりにならないでも欲しい。</p> <p>・リアルを基本にデジタルの力を使って、身体に障害のあるなしに</p>	<p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・学校を楽しんでいる児童・生徒の割合は、小学生、中学生ともに9割前後で推移している。前回調査と比較すると小学生では、93.5%から89.7%へ減少し、中学生では88.1%から89.1%と増加している。</p> <p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・運動することが「好き」と回答する割合は、学年が上がるにつれて低下している。また、中学生では運動することが「好きではない」生徒が24.3%と4人に1人の割合となっている。</p> <p>・さらに、前回調査と比較しても小学生、中学生ともに、「好き」と回答する割合が、若干減少している。</p> <p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・1ヶ月平均の本を読む量は、小学生より中学生の方が「0冊」の割合が高くなっている。</p> <p>・前回調査と比較すると「0冊」の割合が小学生では、6.3%から10.3%に増加、中学生でも18.5%から21.8%に増加している。</p> <p>【保育関係職員】</p> <p>・親自身の時間を子どもの育ちよりも優先していることがあるように思う。そのような影響から子どもの生活リズムがつきにくい気がする。</p> <p>・保育要録や就学支援シートを直接小学校に届けることで、園児の様子を直接伝えることができるようになったことはとても良いと思う。</p> <p>【図書館のおはなし会を実施している団体】</p> <p>・地域の文庫や学童向けのおはなし会に参加しているが、素直で、好奇心旺盛で将来楽しみな子どもたちが多くと感じる。</p> <p>【NPO 法人西東京市多文化共生センター（NIMIC）子ども日本語教室】</p> <p>・児童・生徒数が増加しているため、小学部では入室待ちの児童がいる。中学部では入室を希望する生徒は受け入れているが、マンツーマンでの対応が難しくなっている。</p> <p>・教育委員会には初期対応指導後の受け皿を整備してほしい。その際には、NIMIC は知見を持つボランティア団体として大いに協力したい。</p> <p>【障害のある児童・生徒の保護者の団体】</p> <p>・共生社会実現のため、全ての児童・生徒が多様性や共生社会について理解を深めることのできる授業（体験を伴うものやハルプカードの説明など）を増やして欲しい。</p> <p>・インクルーシブ教育の推進や副読本交流、通常の学級内での（補助）教員による学習指導などをより充実させてほしい。</p> <p>【青少年の方（主に16歳から20歳までの方）】</p> <p>・自分の個性も他人の個性も大切にす社会にしていく必要がある。そのため、一人ひとりの個性を大切にすして、いろんな人が社会で生きていて共生する必要がある、ということをおさうから学校で学ぶ必要があると思う。</p> <p>・学校と生徒の距離が縮まり相談しやすい場になれば良いと思う。</p> <p>【就労継続支援事業所・就労移行支援事業所】</p> <p>・雇用された後は機づながりがなくなるので、集まってコミュニケーションをとる機会から始めるのは良いと思う。生涯学習などを考える場合でも自立をテーマに生活力が上がる学習が良いのではないかと。</p> <p>【教員調査】</p> <p>・今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものとして、「少人数学級」の割合が48.4%と高くなっている。</p> <p>・学校教育で子どもに教えることとして、重要だと思うこととして「自ら学び、考え、主体的に行動する力」の割合が最も高くなっている。</p>	<p>目標1 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成</p> <p>○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 ○新しい時代求められる資質・能力を育む学習指導要領の実施 ○文理融合・文理融合教育の推進 ○キャリア教育・職業教育の充実</p> <p>目標2 豊かな心の育成</p> <p>○子供の権利利益の擁護 ○主観的ウェルビーイングの向上 ○道徳教育の推進 ○いじめ等への対応、人権教育の推進 ○発達支持的生徒指導の推進 ○生命の安全教育の推進 ○体験活動・交流活動の充実 ○読書活動の充実 ○伝統や文化等に関する教育の推進 ○青少年の健全育成 ○文化芸術による子供の豊かな心の育成</p> <p>目標3 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成</p> <p>○学校保健、学校給食・食育の充実 ○生活習慣の確立、学校体育の充実・高度化 ○運動部活動改革の推進と身近な地域における子供のスポーツ環境の整備充実 ○スポーツを通じた健康増進 ○スポーツを通じた共生社会の実現・障害者スポーツの振興</p> <p>目標4 グローバル社会における人材育成</p> <p>○外国語教育の充実</p> <p>目標5 イノベーションを担う人材育成</p> <p>○探究・STEAM教育の充実 ○優れた才能・個性を伸ばす教育の推進</p> <p>目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成</p> <p>○子供の意見表明 ○主権者教育の推進 ○持続可能な開発のための教育（ESD）の推進 ○男女共同参画の推進 ○消費者教育の推進 ○環境教育の推進 ○災害復興教育の推進</p>

	<p>✓ 「西東京市子ども読書活動推進計画」に基づき、学校図書館の活用を図っている。</p> <p>✓ 各学校において読書センター、学習センター、情報センターといった学校図書館の機能に基づく児童・生徒の読書活動の充実を図っている。また、「第4期西東京市子ども読書活動推進計画」の策定に伴い策定記念イベントを実施し、市民への周知を行っている。</p> <p>✓ 市立小・中学校、児童館、学童クラブへの団体貸出や、図書館で除籍となった児童資料の市立小・中学校、乳幼児施設への配布などにより、読書環境の充実のための支援を進めている。</p> <p><3 子どもの健康づくりと体力づくりの推進></p> <p>✓ 「健康」応援都市としての取組を全校で教育課程に位置付けている。また、コーディネーショントレーニングの普及研修や体力向上委員会の設置など、運動だけでなく、生活習慣の向上を目指している。</p> <p>✓ 副読本等を活用した学習やアスリートによる講演会などを通して、オリンピック・パラリンピックの精神についての学習を行った。競技プログラムは中止となったが、各学校でアスリートを応援する色紙の掲示などを行い、オリンピック・パラリンピック東京大会閉会後には「学校2020レガシー」を設定している。</p> <p>✓ 献立表や給食だよりに食に関する情報を掲載し、家庭においても食による健康づくりや季節の行事等への関心が高まるような取組を行っている。</p> <p>✓ 栄養士連絡会が企画する共通献立の全校実施、小学生・保育園児対象の「野菜たっぷりカレンダー」の原画の公募など、児童・生徒への食の関心が高まるように意識付けを行っている。</p> <p><4 一人ひとりを大切にす教育の推進></p> <p>✓ 教育支援コーディネーター連絡会における協議や教育支援アドバイザーの校内委員会への派遣及び助言により校内委員会の充実に向けて取り組んでいる。</p> <p>✓ 教育支援アドバイザーが児童・生徒の実態及び課題を把握し、個に応じた配慮や個別対応などの支援について助言を行うとともに学校生活支援員を小学校に配置し、通常の学級における支援体制を整備している。</p> <p>✓ 教育支援システムを用いた個別の教育支援計画や個別指導計画の作成・活用について、学校訪問時の点検リストに入れることで定期的な指導・助言を行っている。</p> <p>✓ 都立特別支援学校との専門性向上事業で学んだことを発表し、共有化するなど、授業の充実を図るとともに実態に応じた適切な教育課程の編成について研修等を行うことで、特別支援学級、特別支援教室の内容の充実を図っている。</p> <p>✓ 通常の学級について、研究指定校の研究発表会より全市立小・中学校に研究成果を周知し、教員を対象とした研修や学校訪問等を通して、特別支援教育の視点からの授業改善の指導・助言を行っている。</p> <p>✓ 発音や話し方に関する課題については、スクリーニングで対象となった小学1年生の児童を言語相談につなげるなど、フォロー体制を構築して早期対応を図ってきた。また、必要に応じてことばの教室を案内し、各家庭の事情に合わせてながら訓練方法の提案を行っている。</p> <p>✓ 教科書によるマルチメディアデジターを導入し、学校側に活用を周知した。また、図書館においてマルチメディアデジター資料の蔵書数を増やすとともに、巡回展示を実施することで、多くの利用者が触れる機会を作り、周知を図っている。</p> <p>✓ 個に応じた指導の充実について、校内研究や特別支援教育の内容を若手教員に研修するなど教員の資質向上を図っている。</p> <p>✓ 教育支援アドバイザーを計画的・積極的に学校に派遣し、校内委員会の一層の充実や個別指導計画に基づく丁寧な個別対応につなげている。</p> <p>✓ 中学校特別支援学級及び特別支援教室の充実を図るため、中学校特別支援教室のモデル実施を始め、「中学1教室の手引き」にある運営方針等に基づいた指導を展開している。また、ひばりが丘中学校の新校舎に固定制特別支援学級を整備した。</p> <p>✓ 子ども一人ひとりに合った支援につながるよう、就学前施設や在籍校と連携を取りながら、丁寧な相談と、子どもや保護者の考えに寄り添った丁寧で分かりやすい説明を行っている。</p>	<p>関わらず、多様性の中で、全ての人や子どもたちが一緒に学習して環境を作っていければ良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもには体を使って遊ぶというのがすごく大事なことだと思う。 ・次世代を担う子どもの姿をどう考えていかというのは、極めて重要な視点だと思っている。国の教育振興計画でもイノベーションの話やウェルビーイングの中でも協力的幸福という言い方をしたり、他にも主体的などいうところであったり、満遍なく意識されている。前回の計画の中では生きる力を強くするという方針があったが、今回は次世代を担う子どもの姿の中で、子どもに期待するビジョンというものが見えてくると良いと思う。 ・目が届きにくい子どもたちに手を差し伸べながら生きる力やいろいろなスキルを身につけてもらうということが求められているのかという気がする。 ・自己肯定感の部分で、自分の能力を集団の中で比較して見ることで自分の自己肯定感を保っていると多分、上には上があるののでいずれ壁に突き当たり、自己肯定感が満たされないままということになってしまう。 ・主体的で責任をもってやり遂げる達成感と協働の中に幸せを見いだせる両輪の考えがこれからの子どもたちにも必要である。誰かのために尽くす、誰かのために一生懸命頑張るといった幸福感というのは絶対にこれは外してはいけない。協力的幸福をうまく計画に盛り込めればと思う。 ・できているものを学ぶというよりも、子どもたちが学びたいことを教員がくみ取り、組み立てていくほうが良いと思う。 ・基本方針の中で、例えば、「豊かな心」「健康づくり・体力づくり」「一人ひとりを大切にす」というようなコンセプトは、だれも反論できないものだと思う。 ・「社会の変化にこたえる」という目標は、分かりにくいと感じる。社会の変化とは範囲が広すぎる。 ・21世紀にはOECDの中のキー・コンピテンシーが重要で、ICTを使いこなす、自ら主体的に動ける、社会とのつながり、関係性をつくるということである。広い意味を含むので骨子としてはこのまま文言を残しつつ、具体的な取組などを検討する中、そのニュアンスを示すことができると良いと思う。 ・ウェルビーイングの概念自体は非常に重要だが、分かりやすい言葉に置き換えて表現した方が良いと思うので、是非、工夫していただきたい。 ・学びとは楽しいものだ気づいた時に学習意欲も育つと思う。 ・便利な教材だけでなく、リアルで学ぶといった学習も大事だと思う。デジタルがあるから、リアルなものは不要という考え方はない。バランスを取ることが重要である。 		
--	---	---	--	--

<p>【基本方針2】子どもの「心の健康」の育成に向けて</p> <p>子どもが「生きる力」を身に付け、持続可能な社会を創る一員として、学び続けられる大人になっていくためには、子どもの「心の健康」の育成が重要になってくる。様々な出来事に出会い、すぐに解決できない問題に直面しても、力強く生きていけるよう、「心の健康」の育成に向けた相談・支援体制を充実させる。</p> <p>1 相談・支援の充実</p> <p>①教育相談センターにおける相談・支援の充実</p> <p>②子どもの育つ環境を支援するネットワークの充実</p> <p>2 学校における教育支援体制の充実</p> <p>①児童・生徒の「心の健康」の育成</p> <p>②学校と教育委員会との連携による支援の充実</p> <p>③不登校への対応</p> <p>3 学校を支える多様な教育資源の充実</p> <p>①個の教育的ニーズに応じた教育資源の充実</p>	<p><1 相談・支援の充実></p> <p>✓ 来所相談において、子どもの生育歴、情緒・認知・社会性の発達、家庭環境等を総合的に見立て、子ども・保護者と話し合いながら支援方針の検討を行っている。</p> <p>✓ また、定期的に相談の段階に応じたカンファレンスによる見立てや支援方針の検討及び専門性の高い臨床心理士や精神科医師を講師に招いた事例検討会の実施により、相談員の技術向上を図っている。</p> <p>✓ 保護者への心理教育的ガイダンスや情報提供、児童・生徒を取り巻く環境調整、関係機関との連携を行っている。</p> <p>✓ また、就学支援シートの活用や心理アドバイザーの派遣を行い、一人ひとりの見立て・気づきが早期かつ丁寧に行われるよう就学前機関との連携強化に向けて進めた。</p> <p><2 学校における教育支援体制の充実></p> <p>✓ 校内体制の実態把握を目的として、養護教諭と生活指導主任向けにアンケートと聞き取り調査を行った。その結果、教員間の連携が機能し早期対応を図っている学校では、児童・生徒のわずかな変化を捉えた情報共有が意識的に行われていたことが分かった。</p> <p>✓ 早期対応に向けた取組を進めるとともに、長期休業明けに個別の面談の時間を設けるなど、児童・生徒の心に寄り添った指導をするよう指導・助言している。</p> <p>✓ 学校で行うストレスマネジメントのプログラムに関する指導者養成研修を教育支援職員が受講し、学校や適応指導教室での活用について検討を行った。</p> <p>✓ 状況に応じて各種機関と連携を図るなど、臨機応変にきめ細やかな対応を行っている。</p> <p>✓ 新型コロナウイルス感染症の影響で学校が臨時休業となった際には、学校にスクールソーシャルワーカーを派遣し、学校に登校しない・できない児童・生徒及び要支援児童・要保護児童の状況確認と助言を行った。</p> <p>✓ 虐待防止外部委員会へのスクールアドバイザーの派遣を通して、児童・生徒の情報収集をするとともに、ケース会議において助言を行っている。</p> <p>✓ スクールカウンセラーを学校に配置し、日常的な児童・生徒との関わりの中で、児童・生徒や保護者の相談、教員等への助言を行い、学校の教育相談体制の充実を図っている。</p> <p>✓ 様々な背景を持つ登校しない・できない子どもたち一人ひとりに合った支援の検討を行い、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが連携して継続した支援を行っている。</p> <p>✓ 生活指導主任会やスクールカウンセラー連絡会等で、市立小・中学校間で情報共有をすることで、各学校にて、担任やスクールカウンセラーを中心に早期対応をしてきた。</p> <p>✓ 市立小・中学校間での情報交換や協議の場として、中1不登校未然防止委員会を開催している。</p> <p><3 学校を支える多様な教育資源の充実></p> <p>✓ 適応指導教室「スキップ教室」では、児童・生徒一人ひとりの理解に応じた学習指導や生活指導、また行事等を通じて児童・生徒の心や日常生活の安定を図れるよう支援を行っている。</p> <p>✓ 不登校ひきこもり相談室「ニコモルーム」では、相談、家庭訪問、居場所の提供、体験活動等を実施するとともに、施設を利用していない児童・生徒の保護者などへの対応として電話相談や見学対応を行っている。また、状況に応じて、スクールソーシャルワーカーや関係機関と連携した対応を行っている。</p> <p>✓ ニコモルームとスキップ教室、教育相談センターとの連携を強化するため、合同で会議を開催し児童・生徒の支援方針を検討することで、児童・生徒のニーズに合わせた支援を行うとともに、施設ごとの機能を有効に活用して児童・生徒の支援を行ってきた。</p> <p>✓ 母語が日本語でなく、学校生活に適応することが困難な児童・生徒に対して指導員を派遣し、初期の日本語指導を行っている。</p>	<p>・新型コロナにより不登校の児童・生徒と通常の子どもの二分化が進んだように思う。</p> <p>・教育的ニーズが子ども一人ひとりそれぞれ違うと感じ、不登校の児童・生徒のオンラインの必要性も実感した。一方で、実体験をどうしていくかの大切さも実感した。</p> <p>・年齢差に関係なく、人が人としてより良く生きることができると手応えを感じられるように自分で行動を創って行く教育が、要支援の子どもにも普通の子どもにも必要。</p> <p>・教育計画の中で大きな取組として書くことは難しくても、この先、外国人が増えていく中で、外国人の御家族の中で子どもがケアラーになる場合もあるということを想定した考え方が必要になってくる。キーワードや基本方針的なものの中にインクルーシブという言葉もあるので具体的な議論の中で話していきたい。</p> <p>・ヤングケアラーへの支援は簡単なことではないと思うが、献立を一緒に考えるというような身近なことを支援できればと思う。</p> <p>辛いことがあった時ではなく、大変なことがあったら相談して、と呼びかけることで、子どもたちも手を伸ばしていけるのではないかと。</p> <p>・誰一人取り残さない学びのところで、学校の内外を問わず、現場の先生方などがそのような子どもを見つけて、なんらかの支援ができることと良い。コロナ禍以前なら学校で放課後に残ってもらって教えることなどで支援がされていたように思う。新しい時代に合わせた誰一人取り残さない学びを考えたい。</p>	<p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・いやなことやつらいことがあったときに相談できる人が「いる」割合は、学年が高くなるにつれて高くなっており、中学生では約9割となっている。また、前回調査と比較すると大きな変化はないものの、小学4年生、小学6年生では減少、中学生では増加している。</p> <p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・自分に自信のもてるところが「ある」と回答する割合は、学年が上がるとつれて低下しており、中学生では自分に自信のもてるところが「ない」生徒が2割半ばを占めている。</p> <p>・前回調査と比較すると小学4年生では86.3%から83.3%の割合に減少、小学6年生では81.3%から76.2%に減少、中学生では68.9%から73.5%に増加している。</p> <p>【幼稚園】</p> <p>・外国籍の子どもが増えてきている現状を考えつつ、日本に馴染んでいない（日本語が話せない）保護者の「駒込込み寺」のような相談場所があると良い。もしかしたらそういった相談場所もあるかもしれないが、あまり認知されていないように思う。</p> <p>【子ども食堂】</p> <p>・多くは情報弱者であるケースが多く、情報や支援が十分に行き渡っていないように思う。</p> <p>【児童館・児童センターを利用されている中学生】</p> <p>・気軽に悩みなどを話せる場所が欲しい。</p> <p>【教員調査】</p> <p>・今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものとして、「一人ひとりに応じた特別支援教育の充実」が41.6%と高くなっている。</p>	<p>目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂</p> <p>○特別支援教育の推進</p> <p>○不登校児童生徒への支援の推進</p> <p>○ヤングケアラーの支援</p> <p>○子供の貧困対策</p> <p>○特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援</p> <p>○日本語教育の充実</p> <p>○教育相談体制の整備</p> <p>○障害者の文化芸術活動の推進</p>
---	--	---	---	---

<p>【基本方針3】持続可能な社会の創り手を育むための教育環境の充実に向けて</p> <p>時代の変化に対応するための学習環境などの整備や、学校における組織体制や教職員の働き方を見直すことで学校経営改革の推進を図る。さらに、学校を核としながら連携・協働し合う地域づくりに取り組むとともに、家庭教育への支援を充実させることにより、持続可能な社会の創り手を育むための教育環境の充実を図る。</p> <p>1 時代の変化に対応した学習環境等の整備</p> <p>①小中一貫教育の推進</p> <p>②学校の教育環境の整備</p> <p>③学校給食環境の整備</p> <p>④情報教育環境の整備</p> <p>⑤学校施設の適正規模・適正配置と維持管理</p> <p>2 学校経営改革の推進</p> <p>①学校組織の活性化</p> <p>②学校における働き方改革の推進</p> <p>3 学校を核とした地域づくりの推進</p> <p>①地域と学校の連携・協働の仕組みづくり</p> <p>②安全・安心な教育環境の推進</p> <p>4 家庭における教育力の向上</p> <p>①家庭教育に関する学びの機会の充実</p>	<p><1 時代の変化に対応した学習環境等の整備></p> <p>✓ 小学生が中学校生活への憧れや希望を持ち、中学校進学後、スムーズに新しい学校生活を開始できるよう、令和2年4月から全市立小・中学校で西東京市小中一貫教育を開始した。</p> <p>✓ どの小学校からどの中学校に進学しても安心できるよう、小学1年生から中学3年生までを見通した取組を全校で行っている。</p> <p>✓ 算数・数学、外国語・英語、体力向上などの各委員会において、体系的な学びの連続性の整理をしている。また、小学校から中学校へ教育支援システムを活用した引継ぎ(保護者の同意がある場合)を行っている。</p> <p>✓ 学校選択制度については、今後の在り方を懇談会等で検討している。</p> <p>✓ 介助員制度については、障害者に関する法の改正等を踏まえ、一部制度の見直しを行った。</p> <p>✓ 施設面においては、バリアフリー化や誰でもトイレを設置し、照明のLED化や屋上緑化、太陽光発電等、人や環境に配慮した施設となるよう整備を進めている。</p> <p>✓ 子どもたちが教育環境の変化に対応できるよう、幼・保・小の連携として、就学支援ノートの活用や市内公立保育園への心理アドバイザーの派遣を行っている。</p> <p>✓ 建替工事を行った中原小学校とひばりが丘中学校に、学校給食衛生管理基準に準拠した給食室を整備した。</p> <p>✓ 地場産農作物を積極的に活用することで、子どもたちの地場産農作物への興味や関心を高める取組を行っている。</p> <p>✓ 食物アレルギーへの備えとしては、指針の見直しなどを行いながら、安全・安心な給食提供に努めている。また、アナフィラキシーショックへの対応として導入した公立昭和病院とのホットラインを全教職員へ周知するなど、万が一の事態に備えた取組を行っている。</p> <p>✓ 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、GIGAスクール構想の動きが加速した。児童・生徒・教員一人ひとりへのタブレット配布、及び校内のICT環境を整備し、活用している。</p> <p>✓ 授業においてこれらの機器をさらに効果的に活用できるよう、指導者用デジタル教科書の導入を進めている。</p> <p>✓ 令和2年度に「西東京市学校施設適正規模・適正配置に関する基本方針」を策定した。</p> <p>✓ 「西東京市学校施設個別施設計画」については、令和5年度の策定に向け検討を継続している。</p> <p>✓ 中原小学校及びひばりが丘中学校の建替事業や田無小学校の大規模改造、市立小・中学校体育館への空調整備など、教育環境の充実に向けた取組を行っている。</p> <p><2 学校経営改革の推進></p> <p>✓ 各学校では、カリキュラム・マネジメントにより教職員が相互に連携し学校経営に携わるとともに、学校運営連絡協議会での教育活動の報告などを通して学校経営に関する情報を公開している。</p> <p>✓ 令和3年度からは、モデル校として小学校1校、中学校1校でコミュニティ・スクールを設置し、地域住民や保護者の学校経営への参画をいただいている。</p> <p>✓ 部活動については、平成30年度に策定した部活動のガイドラインに基づいて、適切な運営を行っている。部活動指導員に対して、東京都教育委員会が行っている研修会への参加を推奨し、資質の向上を図っている。</p> <p>✓ 学校訪問監査は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、実施方法の変更や規模縮小などの対応を図りながら行っている。</p> <p>✓ 教職員の勤務状況の実態把握及び教職員自らの意識改革を促進するため、教職員の勤怠管理システムを導入した。また、教職員の健康管理について、健康診断に加えてストレスチェックを新たに導入し、高ストレス者に対しては面接指導を行う体制とした。</p> <p>✓ 民間企業の支援の下、タイムマネジメント力向上支援事業を実施した。また、人的支援として、部活動指導員や学校特別非常勤講師、副校長業務支援員を配置している。</p> <p>✓ 統合型校務支援システムを導入し、幅広い校務に関して効率的に事務処理を行うことができる環境を整えた。学校給食費の公会計化については、他市への導入調査等を行った。</p> <p><3 学校を核とした地域づくりの推進></p> <p>✓ コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動については、これらを両輪で進めていけるよう検討を行い、令和3年度から小学校1校、中学校1校において導入を開始した。その中で、学</p>	<p>・地域の大人たちによる子どもへの関わり（子育てへの地域の協力）はとても重要。</p> <p>・家族の繋がりが希薄な社会において地域内で直接人と人が触れ合う機会を設けることこそ利便性重視の社会には重要。</p> <p>・地元に関心を持つことが重要だと実感している。地域コミュニティの場は欠かせなく、推進することが必要かと思う。</p> <p>・コミュニティ・スクールは、どのような構想でコミュニティづくりをし、地域と子どもたちが関わるのかについて、明確なビジョンを示す必要がある。</p> <p>・インクルーシブ教育として、義務教育期間以外の時期の社会教育、生涯教育も計画に盛り込むことができると良い。</p> <p>・既存の西東京市の教育は濃いのでそこに時代の流れを追加し、スクラップアンドビルドで働き方改革も加味しながら計画を進めることができれば良い。</p> <p>・地域と学校、家庭が一体となって、子どもたちに日本や西東京市で生きて良かった、幸せだと感じるように計画を議論したい。</p> <p>・子どもたちが地域の中で大人が自分を見守っていると感じるとい割合が少なく思った。実は周りに大人がいるというのが子どもたち自身には伝わっていないのではないかと。</p> <p>・大人にしても地域や子供たちのために、どこかで自分が役に立っているということが自分の自己肯定感を保つ一つの役に立っていると思う。</p> <p>・大人の子どもへの関わりをもう少し強くしていくことは、大人にも子どもにも良いのではないかとと思う。子どもも大人も人との関わりの中で自分の役割を体感することが大事かと思う。</p> <p>・地域人材は豊かなものがあると思うので、そういう人たちに学べるチャンスというのは、もしかしたら西東京市の子どもたちの財産かとも思う。今後はそういうところも含めて放課後子ども教室や学校と地域の連携をして欲しい。</p> <p>・次期教育計画の中では、学校教育と社会教育の両方が大事であり、学校教育を地域、社会全体で支えていくものというようなイメージを表現してほしい。</p> <p>・今回、ウェルビーイング自体も非常に大事なキーワードだが、先生方のウェルビーイングが高まることで、それが子どもたちのウェルビーイングの向上につながると思う。</p>	<p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・登下校時に危険な思いについて、小学生、中学生ともに約2割は何らか危険な思いをしたことがあると回答している。前回調査と比較すると、小学生では17.5%から19.6%、中学生では19.7%から20.1%に増加している。</p> <p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・タブレットを使った授業で良かったことは、小学生、中学生ともに「自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた」が約6割を占めている。また、小学生では「パソコンやタブレットを使うことが楽しいと感じた」も6割を超えている。</p> <p>【小学生・中学生調査】</p> <p>・地域の大人が自分たちを見守ってくれていると「感じる」割合は、小学4年生で75.4%、小学6年生で61.4%、中学生で53.3%と、学年が上がるにつれて低下している。</p> <p>【PTA・保護者の会(会長等)】</p> <p>・市内に限らず今どきの傾向として、「子どもの自主性を重んじる」ことや「叱らない教育」と「放任」を履き違えている保護者が多いと思う。</p> <p>・共働き家庭が増え、活動に参加できる保護者に限りがあり、人員不足を感じる。</p> <p>・コミュニティ・スクール化に向けて関係各所とのかわり方も変化させる必要がある。</p> <p>【学校施設開放運営協議会(会長・管理者等)】</p> <p>・利用団体の高齢化や保護者の会の委員の選出が難しくなってきたことなどもあり、運営協議会が安定したメンバーで活動できるかも課題の1つになっている。</p> <p>【学校運営協議会(会長・地域学校協働活動推進員)】</p> <p>・今後、現役世代(現在学校に通っている児童・生徒の保護者)の地域における活動を期待する。</p> <p>・高校生、大学生へのアプローチ、高齢者への働きかけ、勉強を教えるボランティア集めに課題。</p> <p>【青少年育成会】</p> <p>・コミュニティ・スクール制度を活用し教職員の負担を減らし児童・生徒に対し指導できる環境を作ることが望ましい。</p> <p>【放課後カフェ】</p> <p>・地域との連携、学校現場の負担軽減のためにもボランティアの受け入れを検討してほしい。中学校内における放課後の居場所づくりを学校に啓発してほしい。</p> <p>【児童館・児童センター職員】</p> <p>・集団で遊ぶ機会が減り、遊びを通じて社会性を獲得できる機会が不足している。</p> <p>・明らかに計算理解、文字の読み書きに遅れを感じる子がいるため、対応が必要。</p> <p>【学童クラブ職員】</p> <p>・アレルギーを持つ子が増えていると感じる。</p> <p>・家庭とも保護者会や行事を通して関わる機会が戻ってきている。</p> <p>・関係機関(学校など)と互いに職員が交流したり、施設見学等で繋がりをもちたい。</p> <p>【児童館・児童センターを利用されている中学生】</p> <p>・気軽に悩みなどを話せる場所が欲しい。</p> <p>【教員調査】</p> <p>・今後、西東京市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものとして、「老朽校舎の建替えや改修」が42.9%と高くなっている。</p> <p>・教員が負担感を感じている業務として「調査・報告書作成」の割合が最も高くなっている。また、多忙を解消するために必要なこととして「調査や事務関係の書類の提出を少なくする」「校務分掌の見直しなど校務の効率化を図る」の割合が高くなっている。</p>	<p>目標9 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上</p> <p>○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進</p> <p>○家庭教育支援の充実</p> <p>○部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境の一体的な整備</p> <p>目標11 教育DXの推進・デジタル人材の育成</p> <p>○1人1台端末の活用</p> <p>○児童生徒の情報活用能力の育成</p> <p>○教師の指導力向上</p> <p>○校務DXの推進</p> <p>○教育データの標準化</p> <p>○基盤的ツールの開発・活用</p> <p>○教育データ分析・利活用及び先端技術の利活用</p> <p>○社会教育分野のデジタル活用推進</p> <p>目標12 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化</p> <p>○指導体制の整備</p> <p>○学校における働き方改革の更なる推進</p> <p>○教師の養成・採用・研修の一体的改革</p> <p>○ICT環境の充実</p> <p>目標13 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保</p> <p>○災害時における学びの支援</p> <p>目標14 NPO・企業・地域団体等との連携・協働</p> <p>○NPOとの連携</p> <p>○企業等との連携</p> <p>○スポーツ・文化芸術団体との連携</p> <p>○福祉機関との連携</p> <p>○警察・司法との連携</p> <p>○関係省庁との連携</p> <p>目標15 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保</p> <p>○学校施設の整備</p> <p>○学校における教材等の充実</p> <p>○学校安全の推進</p>
--	---	--	--	--

課題の解消とともに地域のやりがいや満足感が上がった事例も報告されている。

- ✓ 学校現場がスムーズに実施できるように制度説明やマニュアル整備、モデル校の取組の紹介、学校への助言を行い、実施校の拡大に向けた取組を進めている。
- ✓ 放課後子供教室は、学童クラブとの連携を進め、学童クラブの子どもが学童クラブを休まずに参加できる仕組みの整備を進めてきた。
- ✓ 副都庁については、新型コロナウイルス感染症の影響により市立小・中学校の児童・生徒との直接的な交流は難しく、学校だよりの交換等間接的な交流を行っている。
- ✓ 毎年、学校・地域・保護者・関係機関等と協力・連携して、通学路合同点検等を行い、通学路の安全確保に取り組んでいる。地域安全マップを作成し、通学路等の危険箇所を子どもたちや保護者等が共有し、認識することで、登下校時の安全に対する意識を醸成している。
- ✓ 地域の方々による見守り活動や交通擁護員の活動を通して、子どもたちの登下校時の安全を確保するとともに、交通マナーの指導・啓発を行っている。
- ✓ 「安全教育プログラム」に基づいて、子どもたちが自分の身を守るための資質・能力を高めることができるよう、学校において安全指導を行っている。また、地域人材を活用してスクールガード・リーダーを委嘱し、安全教育に関する助言を行っている。
- ✓ 通学路の防犯カメラは、令和2年度に中学校登下校区域に防犯カメラ(9台)と周知用看板を設置したことにより、これまでの設置台数と合わせて合計99台となった。

<4 家庭における教育力の向上>

- ✓ 地域の大人たちが、子どもの育ちや子どもをめぐる課題等について考える講座を継続的に実施した。この中で新たな市民団体が設立され、公民館との共催講座を実施した事例もあった。
- ✓ 親子が交流しながら一緒に学ぶ講座や子どもの成長に応じた保護者向けの講座を実施している。また、保育付き講座から市民グループが発足する場合もあり、育児期の女性が地域でつながりを形成する機会となっている。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、ブックスタート事業として、絵本プレゼント券の発送や本の図書館カウンターでの受渡し・自宅への郵送などを行い、絵本を介した親子の心の通じ合い・啓発を行った。
- ✓ 放課後子供教室及び地域生涯学習事業は、実施主体と参加者の年齢層が多岐にわたり、世代を超えた交流につながるものである。コロナ禍で計画どおりに実施できなかったが、今後の実施に向け、実施主体との継続的な調整を行っている。

<p>【基本方針4】「学び」を身近に感じ「学び」を実践できる社会の実現に向けて</p> <p>社会の変化に対応した学習機会の提供の充実を図ることにより、生涯にわたって学び、活躍できる環境の整備に取り組む。これにより、地域コミュニティの維持・活性化や地域課題の解決に寄与する「学び」と「活動」の循環の形成を目指す。</p> <p>1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興</p> <p>①生涯学習推進体制の充実</p> <p>②生涯学習情報を提供する体制の整備</p> <p>③学びを通じた地域コミュニティづくり</p> <p>2 誰もが学習に参加できる機会の充実</p> <p>①誰でも学べる機会の充実</p> <p>②ライフステージに応じた学びの機会の充実</p> <p>3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用</p> <p>①公民館機能の充実</p> <p>②図書館機能の充実</p> <p>③文化財の保存と活用の充実</p> <p>④その他地域の学習資源の充実</p>	<p><1 多様な学びをつなぐ生涯学習の振興></p> <p>✓ 学校との連携については、社会教育課・公民館・図書館の学習プログラムを取りまとめ、学校の体験学習を通して児童・生徒へ提供した。地域人材の情報を活用することにより、この体験学習は地域人材の学習成果を還元する場にもなっている。</p> <p>✓ インクルージョン、多文化共生、防災、不登校等の地域課題を取り上げた事業などについて、市民団体等との連携・協働により実施している。</p> <p>✓ ホームページや広報誌にて、市民団体の会員募集、イベント案内等情報提供に努めている。</p> <p>✓ 図書館学習室については、利用しやすいよう、受付カウンターで空き状況を表示している。</p> <p>✓ 公民館では、地域課題を取り上げた講座等を実施しており、地域活動の場、団体同士の交流の場となっている。</p> <p>✓ 団体の日頃の活動成果を発表する機会として、公民館まつり等の地域交流事業や地域で活動する団体や個人を講師とする事業、また、公民館と団体との共催事業等を実施することにより、学びを通じた交流等を図っている。</p> <p><2 誰もが学習に参加できる機会の充実></p> <p>✓ 公民館では、障害の有無に限らず参加できる講座等を継続的に実施している。また、新たなコミュニティづくりの場として市民に利用されている。</p> <p>✓ このほかにも、子どもから高齢者までのライフステージに応じた講座や多文化共生をテーマにした講座等を実施し、各講座で実施した参加者アンケートでは高い評価をいただいている。</p> <p>✓ 図書館において、多文化コーナーの設置や国立国会図書館へのデジタイズ資料の情報提供等、日本語以外を母語とする人々やハンディキャップを持つ人々へのサービスを充実させた。このほかにも、多言語でのおはなし会・講座の実施や音訳者の育成・資質向上のための研修を充実させている。</p> <p>✓ 公民館において、保育付き講座や子育てに関する講座、親子で参加できる講座など、その年代に適した講座内容を検討し、ライフステージに応じた講座を幅広く実施するとともに、公民館まつり等を通して同じ世代だけでなく多世代と交流できる機会を設けている。</p> <p>✓ 図書館において、読書が困難になっている市民への読書支援として大活字本の入替え等を行い、利活用を図った。そのほかにも、地域人材を活用した宅配サービスを実施している。</p> <p>✓ 図書館への要望等についてシニアボランティアアンケートを実施し、その意見を各所に反映させながらシニア支援コーナー(現:シニアコーナー)をリニューアルするなど、内容を充実させた。</p> <p><3 「学び」が実践できる地域の学習資源の活用></p> <p>✓ 地域交流事業や公民館市民企画事業を通して、市民が企画した事業の実施等、市民団体の支援を実施している。</p> <p>✓ 地域・生活課題を取り上げた講座を定期的に実施し、市民へ学習機会を提供したことで、同じことに関心を持つ市民の出会いの場となっている。</p> <p>✓ 市民ニーズに合わせ、図書館資料を提供している。来館の少ないヤングアダルト(YA)世代に向けて、ノンフィクション資料の収集力を入れたことで、調べ学習の支援や図書館利用の促進につながっている。</p> <p>✓ 西東京市図書館協議会へ、西東京市図書館の開館時間の拡大について諮問し、中央図書館の開館時間を早めることなどについての答申を受けている。</p> <p>✓ 電子書籍について、タブレット端末等の普及や図書館向け電子書籍数の増加など、実施環境が整ってきていることを踏まえ、多摩地区の導入状況や費用・課題等に関する調査を行った。</p> <p>✓ 中央図書館・田無公民館耐震補強等改修工事を実施したことで、安全性の向上とともに、利用者から要望の多かったトイレの洋式化や、学習スペースを設置した。</p> <p>✓ Wi-Fi環境の整備やレイアウト変更を行ったことで、より利用しやすい施設として機能の充実を図った。</p> <p>✓ 学校と連携した事業「まちなか先生」にて、地域人材等を市立小・中学校へ講師として派遣し、文化財に関する授業を行った。</p> <p>✓ 市民主体の文化財保護に関する取組の活性化のため、「したのやムらびと制度」や「したのやサポーター制度」を創設した。</p>	<p>・放課後子供教室は、学校が目指すコミュニティをどのような地域に想定して行くのかを考えながら今後の事業展開を図るべき。</p> <p>・公民館としては全市民を対象にした学びの場を保障して行かなければならない。</p> <p>・学びの順番をどうするのか。学びの繋がりが地域コミュニティを作る上で極めて重要と考える。</p> <p>・社会教育を非常に意識した西東京市の過去の学びの蓄積を盛り込んで行けると、方向性として面白いものになる。</p> <p>・「市民活動団体の支援、相談」等は、社会教育課で担うべきではないかと思う。現在は、すべて公民館が主管になっているが、この部分での連携・協働が、もう少し市の中にあると、市民が社会教育課をより身近に感じるようになると思う。</p> <p>・西東京市はとても社会教育が進んでいる土地だと思うので、ここも学校教育とともに計画の中に、これまで同様盛り込んでいただきたい。</p> <p>・生涯学習教育の視点からも学校を核に、子どもを中央にする政策を、公民館、図書館等の社会教育施設が一体となって進めると、連携が強まっていくというイメージだと思う。</p> <p>・同じ世代だけではなく地域のいろいろな世代の方々とも協働して活動することで関わった人、全員が協働的幸福を得られるような取組ができればと思う。</p> <p>・地域のために生きがいをお互いに与え合うということは、我々日本人の強みでもある。</p>	<p>【青少年・一般市民調査】</p> <p>・生涯学習のイメージとしては、青少年、一般市民ともに「生活を楽しみ、心を豊かにすること」「趣味や教養を高めること」「生きがいを充実させること」が上位となっている。</p> <p>・また、生涯学習の必要性を「感じる」割合は、青少年、一般市民ともに9割を超えている。</p> <p>・一方で、生涯学習を行うにあたって困っている点として多かったのは、青少年では「仕事が忙しくて時間がない」が6割を超え、「費用がかかる」が4割を超えている。また、一般市民では「費用がかかる」が約4割、「仕事が忙しくて時間がない」が3割半ばとなっている。</p> <p>・また、前回調査と比較すると「開催されている講座や、利用できる施設などがわからない」の割合は青少年、一般市民ともに増加している。</p> <p>【青少年・一般市民調査】</p> <p>・リカレント教育等の今後の学習活動について、青少年では「今後学習してみたい」の割合が最も高く、一般市民では「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が最も高くなっている。</p> <p>・学びたいときに学べるようにするための取組として、青少年、一般市民ともに「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」の割合が最も高くなっている。</p> <p>・しかし、学びの環境となる図書館の利用は、この1年間において「利用したことはない」の割合が青少年、一般市民とも5割を超えて、前回調査と比較しても増加している。</p> <p>・さらに、図書館サービスの認知度は、前回調査と比較すると「知っているものは1つもない」の割合は青少年、一般市民ともに増加している。</p> <p>【公民館】</p> <p>・西東京市の公民館は他市からうらやましがられるくらいのものである。職員配置、機能などが充実している。</p> <p>・公民館の職員を可能な限り専門的な正規の職員にしたいと思う。正規の職員が地域に出て地域の状態を知り、それに基づいていろいろな企画を立てるといったようなことをやっていけば社会教育が地域に広がっていくきっかけになると思う。</p>	<p>目標8 生涯学び、活躍できる環境整備</p> <p>○働きながら学べる環境整備</p> <p>○リカレント教育のための経済支援・情報提供</p> <p>○現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進</p> <p>○女性活躍に向けたリカレント教育の推進</p> <p>○高齢者の生涯学習の推進</p> <p>○生涯を通じた文化芸術活動の推進</p> <p>目標 10 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進</p> <p>○社会教育施設の機能強化</p> <p>○社会教育人材の養成・活躍機会拡充</p> <p>○地域課題の解決に向けた関係施設・施策との連携</p>
---	---	--	--	--

	<ul style="list-style-type: none">✓ 下野谷遺跡の保存については、令和元年度に「史跡下野谷遺跡整備基本計画～ みんなでつくる、つなげる都市部の縄文空間 ～」を策定し、整備工事を行っている。遺跡保護を念頭に置きながら、事前説明会を始めとした周辺住民へ丁寧な周知を行った。✓ 下野谷遺跡の活用については、コロナ禍の中でできることを模索し、秋まつり等のイベントを数多く実施した。その中には、地域のやりがいや満足感につながる事例も報告されている。✓ 下野谷遺跡については、遺跡保護のための整備工事や、遺跡を活用した子どもから大人まで参加できるイベントを開催したことで、地域全体で文化財保護への意識を高めることができた。✓ 学校を地域の活動拠点の一つとしていくことを目的として、学校教育に支障のない範囲で学校施設開放を進めており、令和2年度には新たに明保中学校体育館の施設利用を開始した。✓ 図書館においては、デジタルアーカイブにて電子化した資料を公開したことで、来館できない市民にも資料を提供することができ、資料活用の促進につながっている。✓ 武蔵野大学と連携し、日本文学文化学科の授業「読書への誘い」へ講師を派遣し講義を行っている。毎年度、学生からのアンケート結果を基に、青年期コーナーの書架における選書や蔵書構成に反映している。			
--	--	--	--	--